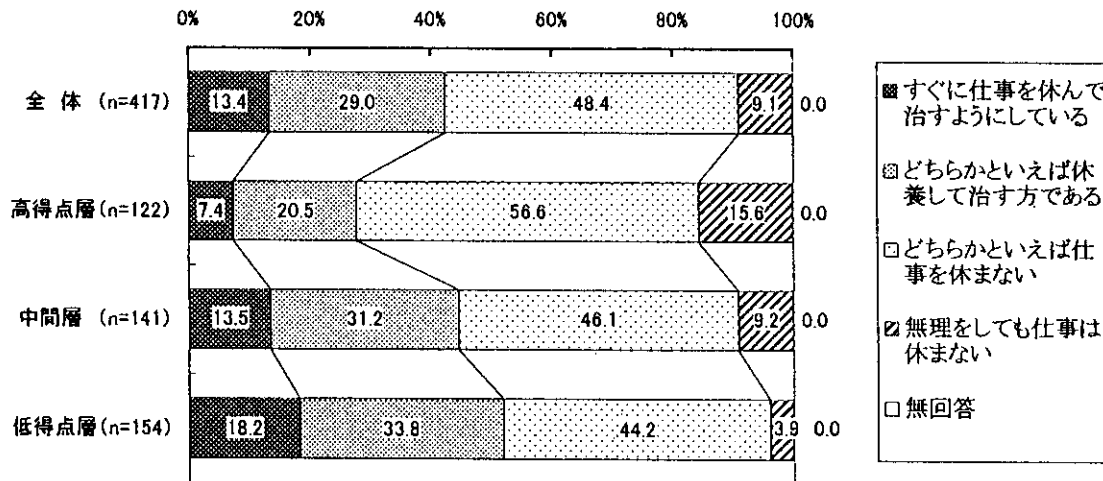


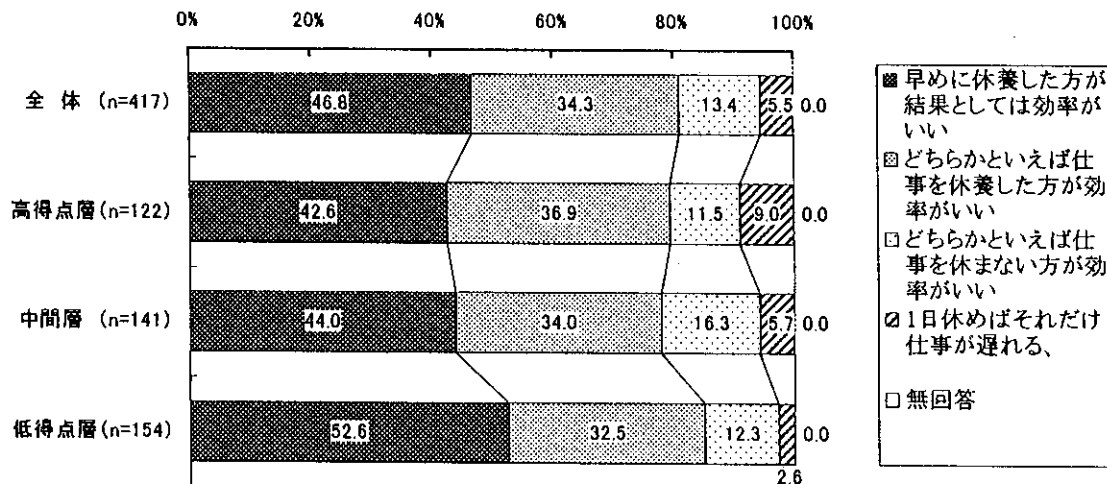
②病気やストレスの状況

病気やストレスの状況を見ると、高得点層は「どちらかといえば仕事を休まない」(56.6%)、「無理をしても仕事は休まない」(15.6%)など病時も休職しない人が7割を占めており、また、「非常にストレスがたまっている」(30.3%)人が多くみられる。

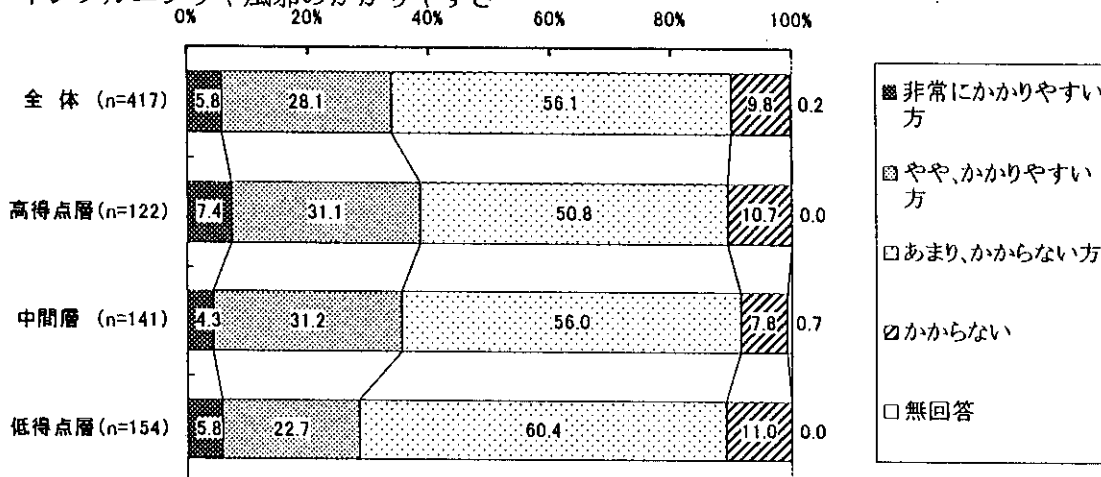
a. 病気と休職の状況



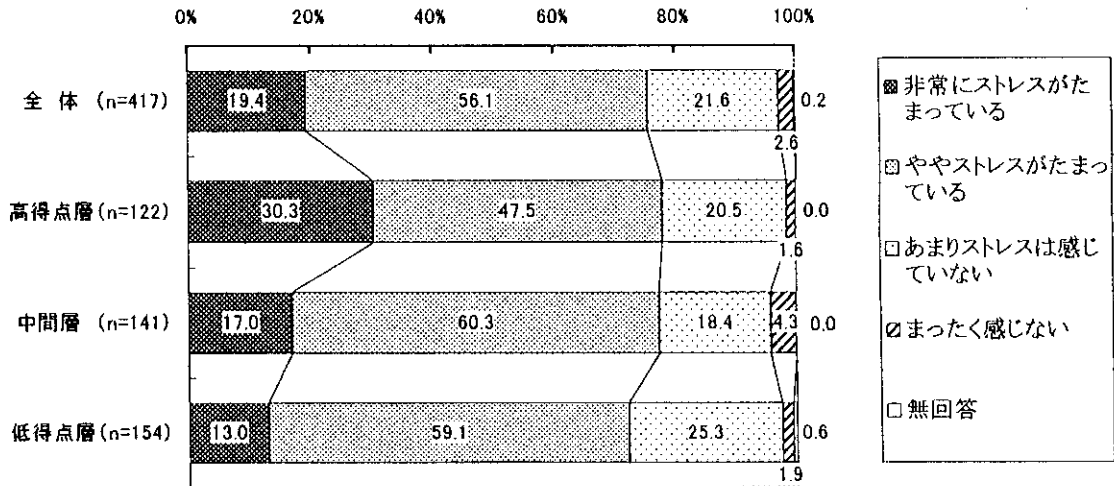
b. 病時における休養と仕事の効率



c. インフルエンザや風邪のかかりやすさ



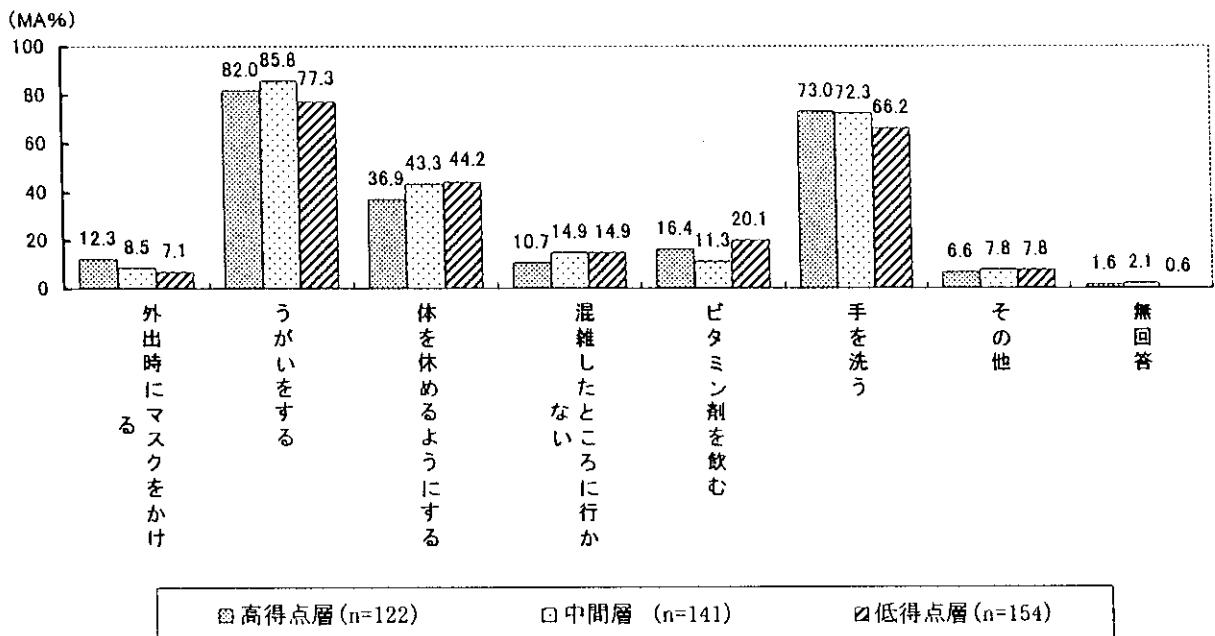
d. 仕事のストレスの状況



③インフルエンザや風邪への対処

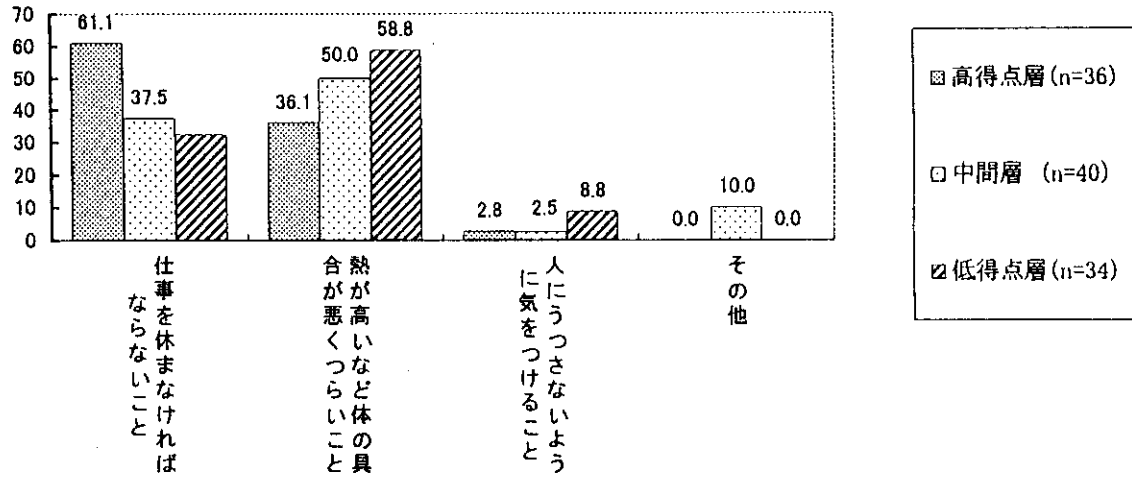
インフルエンザや風邪への対処の状況を見ると、「体を休めるようにする」(36.9%)が他の層に比べて低くなっている。また、インフルエンザ等の罹患時の問題点として、「熱が高いなど体の具合が悪くつらいこと」(36.1%)よりも、「仕事を休まなければならないこと」(61.1%)の方が圧倒的に高く、ここでもワーカホリック的な気質がみてとれる。更に、インフルエンザ等の罹患時に医療機関に行かない人の理由として、「熱が高く外出するのがつらいので」(28.6%)が高く、外出が困難なほどの高熱でなければ仕事を休んでいない状況がうかがえる。

a. インフルエンザの予防行為



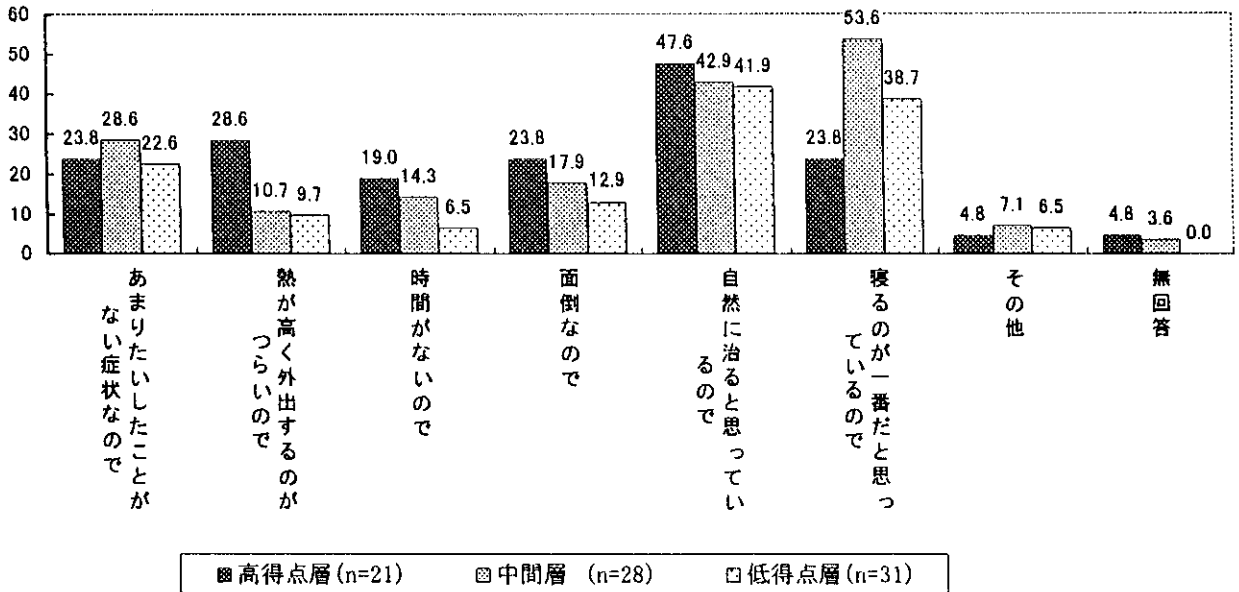
b. インフルエンザ罹患時の問題点

(MA%)



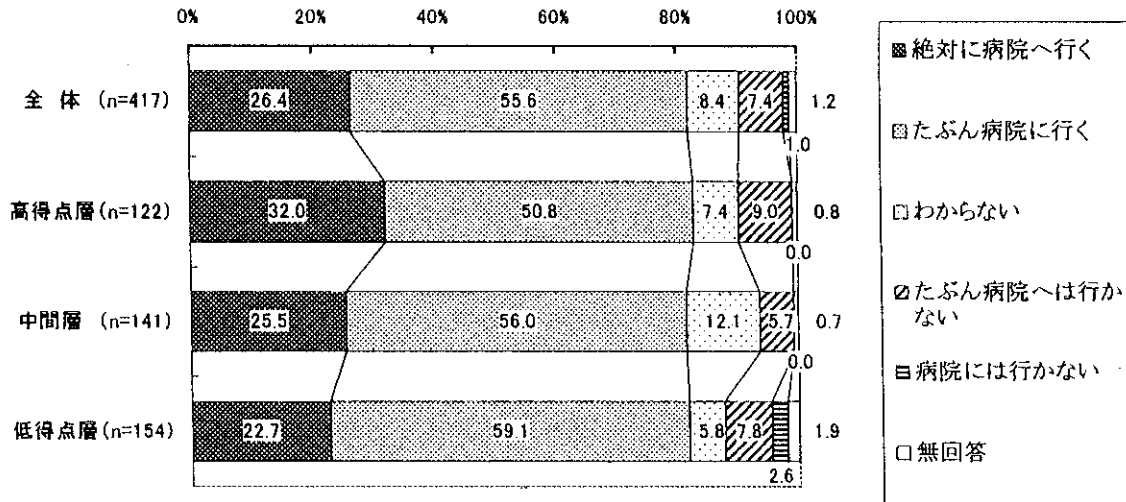
c. インフルエンザや重い風邪のときに受診しない理由

(MA%)



④インフルエンザの罹患初期時に症状を軽減する薬剤の処方に対する通院の意向

以上みてきたように多分にワーカホリック的気質をもつ Type A 高得点者層において、インフルエンザの罹患初期時に症状を軽減する薬剤の評価は他の層に比べてやや高く、「絶対に病院へ行く」が32.0%を占めている。



インフルエンザに関する調査

(3歳以下の子供の母親)

報告書

2000年5月
株式会社 朝日エル

目 次

| | |
|-------------------------------|-----|
| 調査概要 | 87 |
| 対象者属性 | 88 |
| 調査結果の詳細 | |
| Ⅰ インフルエンザについての知識と情報 | |
| 1. インフルエンザに関する知識 | 89 |
| 2. インフルエンザについての入手経路 | 91 |
| 3. 病気・健康についての信頼できる情報源 | 92 |
| 4. インフルエンザについて必要な情報 | 93 |
| Ⅱ インフルエンザの予防の状況 | |
| 1. インフルエンザの予防行為 | 94 |
| 2. インフルエンザ予防接種の効果 | 95 |
| 3. 子どもの予防接種の状況 | 96 |
| 4. 来シーズンの予防接種の意向 | 98 |
| Ⅲ インフルエンザの治療の状況 | |
| 1. インフルエンザの罹患状況 | 100 |
| 2. インフルエンザ罹患時の対処 | 101 |
| 3. 子供のインフルエンザ罹患時の問題点 | 102 |
| 4. 今後のインフルエンザ罹患時の対処 | 103 |
| Ⅳ 薬剤の認知状況 | |
| 1. インフルエンザの診療時に処方された薬剤 | 104 |
| 2. 「リレンザ」の認知状況 | 106 |
| Ⅴ インフルエンザに効果的な薬剤についての意識 | |
| 1. 罹患初期の服用により症状を軽減する薬剤についての評価 | 107 |
| 2. 家族が罹患した場合の予防薬の服用についての意識 | 108 |
| 3. 病院処方予防薬による予防接種への態度の変化 | 109 |

調査概要

1. 調査の目的

この調査は、主として子どものインフルエンザ予防のため、母親のインフルエンザに対する意識や日常の予防と対処、薬剤への評価及び生活状況を把握することにより、今後の情報提供のあり方を探ることを目的として実施した。

2. 調査対象

3歳以下の子どもを持つ母親

※対象者は、保育園・幼稚園を通じて、同一園から30名までを限度に依頼した。

3. 調査方法

郵送調査法

※保育園・幼稚園から配布、回収は郵送とした。

4. 調査時期

平成12年4月

5. 回収状況

有効回収数：417件

| | 発送数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-----------|------|-------|-------|
| 全 体 | 280票 | 190票 | 67.9% |
| 保育園児を持つ母親 | 142票 | 106票 | 74.6% |
| 幼稚園児を持つ母親 | 138票 | 84票 | 60.9% |

◇報告書の見方

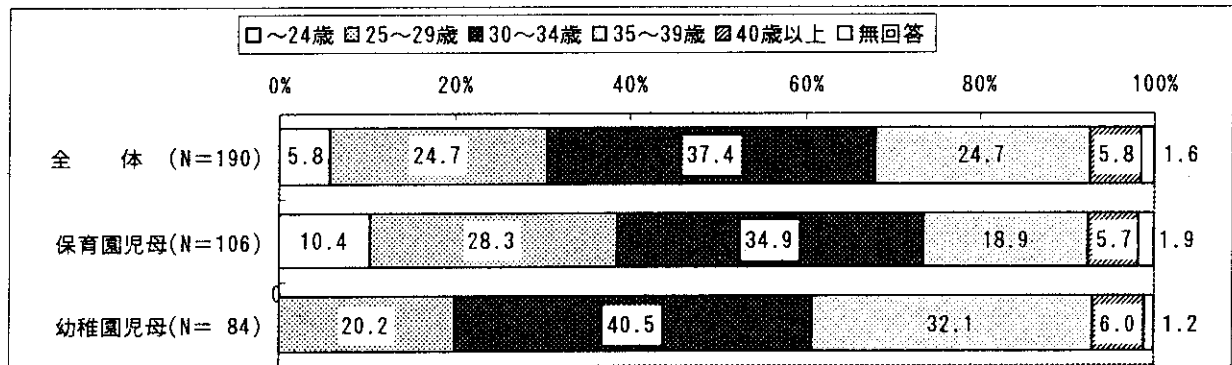
①回答は、各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあるが、少数第2位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならないことがある。

②2つ異常の回答ができる質問(MA)では、回答比率の合計が100%を超える。

対象者属性

◇対象者の年齢

—中心年代は「30～34歳」—

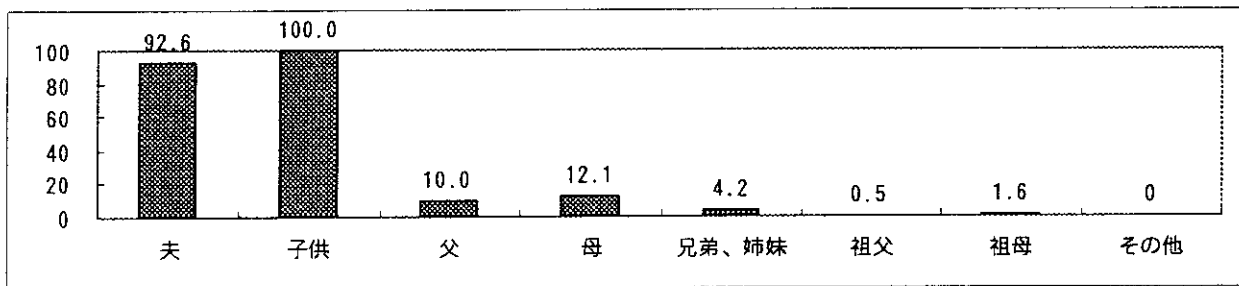


- ・対象となった3歳児の母親は、「30～34歳」(37.4%)を中心に20代後半から30代後半にかけて多い。
- ・子供の通園先別にみると、いずれも「30～34歳」が3～4割を占めて最も多いが、その他の年代をみると〔保育園児母〕では「20代以下」が約4割を占めるのに対し、〔幼稚園児母〕では「30代後半以上」が約4割となっており、〔保育園児母〕の方が若い。

◇同居家族

(%)

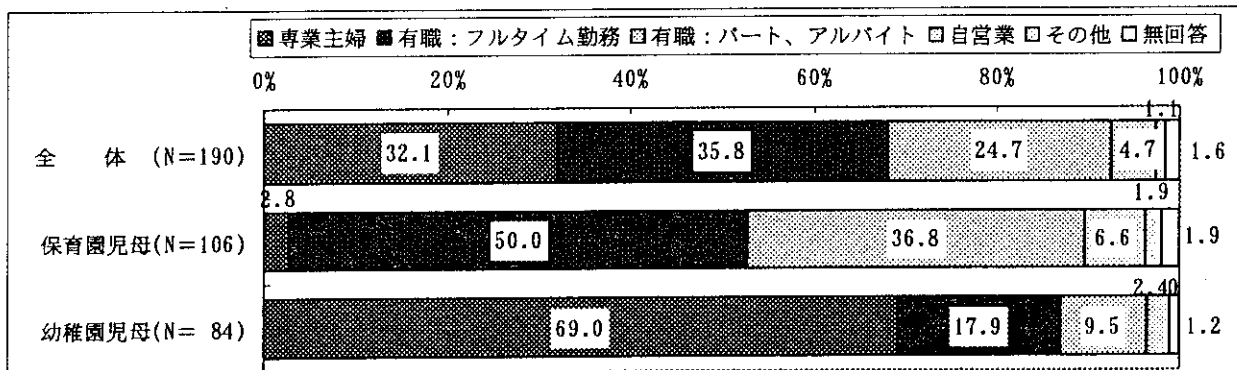
—ほとんどが「核家族」—



- ・対象者は「夫」「子供」との同居がほとんどで、「父」「母」など他の家族と同居している割合は非常に少ない。このことから、対象者は大半が“核家族”と判断してよい。

◇職業

—〔保育園児母〕は約9割が就業、〔幼稚園児母〕は約7割が「専業主婦」—



- ・全体では「専業主婦」「有職：フルタイム勤務」「有職：パート、アルバイト」にほぼ三分している。
- ・〔保育園児母〕では「有職：フルタイム勤務」50.0%、「有職；パート、アルバイト」36.8%、「自営業」6.6%と約9割が何らかの仕事をしている。
- ・〔幼稚園児母〕では約7割が「専業主婦」(69.0%)である。

1. インフルエンザについての知識と情報

1. インフルエンザについての知識

①インフルエンザに対する認識 (MA)

インフルエンザの知識についてたずねたところ、インフルエンザは「ウイルスによって引き起こされる病気」(81.6%)、「高齢者では死に至ることもある病気」(78.4%)と認識している割合が高い。

「小児・幼児では脳炎を起こすことがある病気」(68.9%)は約7割が挙げているが、子供の年齢から見て必ずしも十分に認知されているとは言えないだろう。また「インフルエンザウイルスによって起こる伝染病」(60.0%)、「感染力がとても強い伝染病」(43.2%)など“伝染病”としての認識もどちらかといえばまだ十分とは言えず、「風邪がひどくなったもの」(16.8%)、「細菌によって引き起こされる病気」(5.3%)との認識も根強いのが現状である。

通園先による顕著な差はみられず、いずれの母親もほぼ同様の認識の仕方をしている。その中で「小児・幼児では脳炎を起こすことがある病気」(保育園児母63.2%、幼稚園児母76.2%)、「熱の高い病気」(保育園児母64.2%、幼稚園児母75.0%)について比較的差が現れており、〔幼稚園児母〕の方が認知度が高い。

◆インフルエンザについての認知(MA)

| | | (%) | | |
|----|-----------------------|------|-------|-------|
| | | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
| N | | 190 | 106 | 84 |
| 1 | ウイルスによって引き起こされる病気 | 81.6 | 79.2 | 84.5 |
| 2 | 高齢者では死に至ることもある病気 | 78.4 | 75.5 | 82.1 |
| 3 | 熱の高い病気 | 68.9 | 64.2 | 75.0 |
| 4 | 小児・幼児で脳炎を起こすことがある病気 | 68.9 | 63.2 | 76.2 |
| 5 | インフルエンザウイルスによって起こる伝染病 | 60.0 | 59.4 | 60.7 |
| 6 | 感染力がとても強い伝染病 | 43.2 | 46.2 | 39.3 |
| 7 | 何年かに1度大流行が起こる病気 | 40.5 | 43.4 | 36.9 |
| 8 | 香港やロシアからくる風邪 | 22.1 | 21.7 | 22.6 |
| 9 | 風邪がひどくなったもの | 16.8 | 18.9 | 14.3 |
| 10 | 細菌によって引き起こされる病気 | 5.3 | 4.7 | 6.0 |
| 11 | 弱った肺が原因で引き起こされる病気 | 0.5 | 0 | 1.2 |
| 12 | その他 | 1.1 | 0.9 | 1.2 |
| | 無回答 | 1.6 | 1.9 | 1.2 |

②インフルエンザに関する情報の認知状況 (MA)

最近のインフルエンザに関する情報の認知についてたずねたところ、「インフルエンザワクチンが不足」(76.8%)や「病院や老人施設での集団感染」(70.0%)など、昨年新聞やTVニュース等で頻繁に取り上げられた話題が高い。特に〔幼稚園児母〕では約9割が「インフルエンザワクチンが不足」を認知している。

この他、「インフルエンザが子供の脳炎・脳症を引き起こす」「学校での予防接種(ワクチン)が義務でなく任意に」も7割近くが挙げている。一方「『インフルエンザは風邪じゃない』というキャッチフレーズ」(38.4%)を知っている者は4割弱であり、「国立感染症研究所に『インフルエンザ相談ホットライン』設置」(3.7%)についてはほとんど知られていなかった。

◆最近のインフルエンザ関連情報(MA)

(%)

| | 全体 | 保育園児 母 | 幼稚園児 母 |
|-------------------------------|------|-----------|-----------|
| N | 190 | 106 | 84 |
| 1 インフルエンザワクチンが不足 | 76.8 | 67.9 | 88.1 |
| 2 病院や老人施設での集団感染 | 70.0 | 67.0 | 73.8 |
| 3 インフルエンザが子供の脳炎・脳症を引き起こす | 69.5 | 64.2 | 76.2 |
| 4 学校での予防接種(ワクチン)が義務でなく任意に | 67.9 | 68.9 | 66.7 |
| 5 インフルエンザには主にA型、B型の2種類がある | 53.2 | 52.8 | 53.6 |
| 6 厚生省が高齢者に予防接種(ワクチン)を推奨 | 44.7 | 35.8 | 56.0 |
| 7 「インフルエンザは風邪じゃない」というキャッチフレーズ | 38.4 | 40.6 | 35.7 |
| 8 厚生省がインフルエンザ新薬を緊急承認 | 15.3 | 12.3 | 19.0 |
| 9 国立感染症研究所に「インフルエンザ相談ホットライン」設 | 3.7 | 2.8 | 4.8 |
| 10 その他 | 1.1 | 0.0 | 2.4 |
| 無回答 | 1.6 | 0.9 | 2.4 |

2. インフルエンザについての入手経路 (MA)

母親たちのインフルエンザに関する情報の入手経路としては、「テレビニュース」(94.7%)に大きく集中しており、2位の「新聞」(65.3%)と合わせて、マスコミからの情報が大きなウェイトを占めていることがわかる。また、「子供が保育園・幼稚園、学校などからもらった資料」や「仕事先以外の病院・診療所」については半数前後の母親が情報源として利用している。

通園先別ではいずれの母親も「テレビニュース」が一番の情報源であるが、〔保育園児母〕は「子供が保育園・幼稚園、学校などからもらった資料」(64.2%)が2位となっており、保育園から情報を入手していることがわかる。それに対し、〔幼稚園児母〕は「新聞」(77.4%)の利用が多いことが特徴である。また〔幼稚園児母〕では約4割が「子どもが保育園・幼稚園、学校などからもらった資料」「テレビ番組」と同様に「友人・知人」の口コミをあげており、これには子供の幼稚園の送迎時などの母親同士の情報交換なども大きなウェイトを占めていると思われる。

◆インフルエンザ関連情報の入手経路

| | | (%) | | |
|----|---------------------------|------|-------|-------|
| | | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
| N | | 190 | 106 | 84 |
| 1 | テレビニュース | 94.7 | 96.2 | 92.9 |
| 2 | 新聞 | 65.3 | 55.7 | 77.4 |
| 3 | 子供が保育園・幼稚園、学校などからもらった資料 | 53.2 | 64.2 | 39.3 |
| 4 | 仕事先以外の病院・診療所 | 44.2 | 44.3 | 44.0 |
| 5 | テレビ番組 | 34.2 | 30.2 | 39.3 |
| 6 | 友人・知人 | 32.1 | 24.5 | 41.7 |
| 7 | 家族 | 24.2 | 23.6 | 25.0 |
| 8 | 市町村などの広報 | 21.1 | 20.8 | 21.4 |
| 9 | 職場 | 17.4 | 24.5 | 8.3 |
| 10 | 保健所 | 13.7 | 14.2 | 13.1 |
| 11 | 雑誌 | 12.6 | 13.2 | 11.9 |
| 12 | 健康保険組合や会社の健康管理の部署からもらった資料 | 11.6 | 8.5 | 15.5 |
| 13 | ラジオ | 6.8 | 7.5 | 6.0 |
| 14 | 仕事先の医務室・診療所 | 6.3 | 8.5 | 3.6 |
| 15 | インターネット | 1.1 | 0 | 2.4 |
| 16 | その他 | 1.1 | 0.9 | 1.2 |
| | 無回答 | 1.6 | 0.9 | 2.4 |

3. 病気・健康についての信頼できる情報源（MA）

インフルエンザに限らず、病気全般や健康に関する情報の入手経路を“信頼できる”順に3つ挙げ、それらを総合すると、最も信頼性が高いのは「仕事先以外の病院・診療所」(57.4%)であった。この項目は「1位」として挙げた中でも4割を占め、最も多くなっている。

次いで、「テレビニュース」53.7%、「新聞」42.1%となっており、医療期間とマスコミが高い信頼を得ていることがわかる。

「子供が保育園・幼稚園、学校などからもらってきた資料」「保健所」「市町村などの広報」などは、信頼性が低いというよりも、主な情報入手経路として接している者が少ない割には信頼度は高い結果を示している。

通園先別の相違としては、〔保育園児母〕は「子供が保育園・幼稚園、学校などからもらってきた資料」(50.0%)をあげており、保育園を頼りにしていることがわかる。

◆病気や健康について信頼できる情報源 —総合— (MA) (%)

| | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
|------------------------------|------|-------|-------|
| N | 190 | 106 | 84 |
| 1 仕事先以外の病院・診療所 | 57.4 | 58.5 | 56.0 |
| 2 テレビニュース | 53.7 | 52.8 | 54.8 |
| 3 新聞 | 42.1 | 34.9 | 51.2 |
| 4 子供が保育園・幼稚園、学校などからもらってきた資料 | 38.4 | 50.0 | 23.8 |
| 5 保健所 | 35.8 | 36.8 | 34.5 |
| 6 市町村などの広報 | 14.2 | 11.3 | 17.9 |
| 7 テレビ番組 | 12.6 | 10.4 | 15.5 |
| 8 友人・知人 | 8.4 | 8.5 | 8.3 |
| 9 家族 | 5.8 | 5.7 | 6.0 |
| 10 職場 | 5.3 | 5.7 | 4.8 |
| 11 健康保険組合や会社の健康管理の部署からもらった資料 | 4.2 | 3.8 | 4.8 |
| 12 雑誌 | 3.7 | 4.7 | 2.4 |
| 13 仕事先の医務室・診療所 | 1.6 | 1.9 | 1.2 |
| 14 ラジオ | 1.1 | 0 | 2.4 |
| 15 インターネット | 0 | 0 | 0 |
| 16 その他 | 0.5 | 0 | 1.2 |
| 無回答 | 1.6 | 0.9 | 2.4 |

4. インフルエンザについて必要な情報（MA）

母親達が必要とする情報は「子供のインフルエンザについて」(77.4%)が最も高く、次いで、「かかった時の対処法について」(74.2%)、「かかりはじめの症状について」(68.4%)「予防接種(ワクチン)について」(65.3%)、「治療薬について」(55.3%)となっており、かかった直後の対応や薬に関する情報が上位を占めている。

こうした傾向は通園先別にみてもほぼ同じであるが、〔保育園児母〕では「予防のための生活習慣について」(48.1%)など“自分でできる具体的な内容”を、〔幼稚園児母〕では「予防接種(ワクチン)について」(71.4%)など“予防策”に関する情報を必要とする傾向がある。

◆必要な情報(MA)

| | | (%) | | |
|----|------------------|------|-------|-------|
| | | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
| N | | 190 | 106 | 84 |
| 1 | 子供のインフルエンザについて | 77.4 | 78.3 | 76.2 |
| 2 | かかった時の対処法について | 74.2 | 77.4 | 70.2 |
| 3 | かかりはじめの症状について | 68.4 | 72.6 | 63.1 |
| 4 | 予防接種(ワクチン)について | 65.3 | 60.4 | 71.4 |
| 5 | 治療薬について | 55.3 | 52.8 | 58.3 |
| 6 | インフルエンザの流行状況について | 50.5 | 48.1 | 53.6 |
| 7 | 予防薬について | 48.4 | 46.2 | 51.2 |
| 8 | 予防のための生活習慣について | 41.1 | 48.1 | 32.1 |
| 9 | 相談窓口や専門医に関する情報 | 24.7 | 22.6 | 27.4 |
| 10 | 高齢者のインフルエンザについて | 9.5 | 4.7 | 15.5 |
| 11 | その他 | 0.5 | 0.9 | 0 |
| | 無回答 | 0.5 | 0.9 | 0 |

II. インフルエンザの予防の状況

1. インフルエンザの予防行為

インフルエンザの予防としては【母親】【子供】とも、「手を洗う」(母91.1%、子87.9%)、「うがいをする」(母85.8%、子72.6%)の実施割合が高い。しかし「外出時にマスクをかける」(母7.4%、子2.6%)や「ビタミン剤を飲む」(母10.5%、子4.2%)はほとんど実行されていない。

母子間で比較すると、「手を洗う」「うがいをする」「ビタミン剤を飲む」は【母親】の方が【子供】より実行しているが、「混雑したところに行かない」「体を休めるようにする」は【子供】の方が高い割合である。

通園先別にみると【母親】【子供】とも、ほとんどの予防行為について〔幼稚園児母〕の方が〔保育園児母〕より実施割合が高い傾向にある。これは前問の『インフルエンザについて希望する情報』で、〔保育園児母〕の方が〔幼稚園児母〕よりも「予防のための生活習慣」に関する情報を望んでいたこととも関連している。〔保育園児母〕がそうした傾向を示すのは、〔保育園児母〕は有職者が多いこともあって、時間的な問題として〔幼稚園児母〕よりも情報不足になったり、予防行動がとりにくい・させにくい状況があるためではないかと思われる。

◆インフルエンザの予防行為(MA) (%)

| | 母 親 | | | 子 供 | | |
|----------------|------|-----------|-----------|------|-----------|-----------|
| | 全 体 | 保 育 園 児 母 | 幼 稚 園 児 母 | 全 体 | 保 育 園 児 母 | 幼 稚 園 児 母 |
| N | 190 | 106 | 84 | 190 | 106 | 84 |
| 1 手を洗う | 91.1 | 88.7 | 94.0 | 87.9 | 85.8 | 90.5 |
| 2 うがいをする | 85.8 | 81.1 | 91.7 | 72.6 | 67.0 | 79.8 |
| 3 混雑したところに行かない | 43.2 | 32.1 | 57.1 | 54.7 | 47.2 | 64.3 |
| 4 体を休めるようにする | 35.3 | 34.0 | 36.9 | 42.6 | 45.3 | 39.3 |
| 5 ビタミン剤を飲む | 10.5 | 9.4 | 11.9 | 4.2 | 3.8 | 4.8 |
| 6 外出時にマスクをかける | 7.4 | 8.5 | 6.0 | 2.6 | 2.8 | 2.4 |
| 7 その他 | 7.9 | 8.5 | 7.1 | 11.6 | 10.4 | 13.1 |
| 8 特に何もしていない | 5.8 | 8.5 | 2.4 | 6.8 | 10.4 | 2.4 |

2. インフルエンザ予防接種の効果

①予防接種の効果に対する意識

インフルエンザの予防接種に対しては、「とても有効だと思う」6.8%、「効果があると思う」77.9%と、計84.7%の母親が“効果がある”と考えている。

通園先別でも傾向としてはほぼ同様で、8割以上が“効果がある”と考えている。しかし「効果はない」については、〔保育園児母〕(17.0%)の方が〔幼稚園児母〕(7.1%)よりも高くなっている。

②予防接種の評価理由（F A）

「とても有効だと思う」と答えた理由については12件寄せられているが、その半数は子供や身近な人の接種経験からの“実証”である。また、「病院での案内」も効果への信頼につながっている。

「効果があると思う」として寄せられた129件の中では、自分や知人の実体験、伝聞を含めて「予防接種をすとかかりにくい」という理由と、「かかっても軽くすむ」という理由が多い。その一方で、「皆がやっているから」「しないよりはした方がいい」といった消極的理由や、「型が合えば有効」「予防接種をしてもインフルエンザにかかる」など、ある限定された範囲内で“効果がある”としている者も比較的多い。

一方「効果がない」と答えた理由の大半は「ウィルスの型とワクチンが合わないと効果がない」「予防接種をしても罹患した」など、ワクチンへの不信感が大きい。

| | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
|-----------|------|-------|-------|
| N | 190 | 106 | 84 |
| とても有効だと思う | 6.8 | 7.5 | 6.0 |
| 効果があると思う | 77.9 | 74.5 | 82.1 |
| 効果はないと思う | 12.6 | 17.0 | 7.1 |
| 無回答 | 2.6 | 0.9 | 4.8 |

| | | |
|------------------------|------------------------------|----|
| とても有効だと思う (回答数 12件) | ・接種した年はかからなかった | 4 |
| | ・身近な人が受けて効果があった | 2 |
| | ・効果がある／かかってからでは遅い／かかっても軽くすむ | 4 |
| | ・病院で案内しているから | 2 |
| 効果があると思う (回答数129件) | ・接種すとかからない／かかりにくい／免疫ができるから | 38 |
| | ・予防のための注射だから／そのために作られているから | 4 |
| | ・かかっても軽くすむから | 24 |
| | ・効果があるから皆がしている／ワクチンが不足するくらいだ | 13 |
| | ・しないよりはした方がいい／気分的に違うから | 4 |
| | ・医者／保健所／公的機関がすすめるから | 8 |
| | ・テレビでそう言っているから | 3 |
| | ・型が合えば有効／合わないと効かないこともある | 22 |
| | ・予防接種をしてもかかった／100%きくとは限らない | 5 |
| ・その他 | 8 | |
| 効果がないと思う (回答数 21件) | ・ウィルスの型が合わないと効果がない | 10 |
| | ・予防接種を受けてもインフルエンザにかかる／かかった | 7 |
| | ・予防接種の効果が出るまで時間がかかる | 1 |
| | ・注射が好きではない | 1 |
| | ・インフルエンザ情報／ワクチンに関する情報が曖昧 | 2 |

3. 子供の予防接種状況

①今シーズンの予防接種状況

今シーズンに子供に予防接種を「受けさせた」のは14.2%であり、大半が「受けさせなかった」(85.3%)としている。

前問の『予防接種の効果』との関連でみると、実際に「受けさせた」のは「とても有効だと思う」と答えた人の23.1%(3名)、「効果があると思う」と答えた人の14.9%(22名)と低い割合に留まっており、有効性を感じつつも実行に移さない人が多い。“効果がある”としながら受けなかった人の考えを前問の『効果の有無の理由』から探ってみても、必ずしも予防接種への不安や不信感からではないことから、インフルエンザへの危機感の薄さが主な要因ではないかと思われる。

◆今シーズンの予防接種 (%)

| | 全体 | 保育園児 母 | 幼稚園児 母 |
|----------|------|-----------|-----------|
| N | 190 | 106 | 84 |
| 受けさせた | 14.2 | 11.3 | 17.9 |
| 受けさせなかった | 85.3 | 88.7 | 81.0 |
| 無回答 | 0.5 | 0 | 1.2 |

◆予防接種の効果と今シーズンの接種状況 (%)

| | | 予防接種の効果 | | | |
|--------|----------|---------|-----------|-----------|-----------|
| | | 全体 | とても 有効 | 効果が ある | 効果は ない |
| N | | 190 | 13 | 148 | 24 |
| 今 期 | 受けさせた | 14.2 | 23.1 | 14.9 | 8.3 |
| | 受けさせなかった | 85.3 | 76.9 | 84.5 | 91.7 |
| | 無回答 | 5.0 | 0 | 0.7 | 0 |

②子供に予防接種を受けさせた理由 (MA)

予防接種を受けた理由としては「インフルエンザが流行すると聞いたので」(85.2%・23名)、「マスコミで報道されているので」(25.9%・7名)、「友人・知人にすすめられたので」(22.2%・6名)など、マスコミや口コミの情報によって判断している者が多い。

これに対して、「子供が通う保育園・幼稚園ですすめられたので」(3.7%・1名)や「かかりつけ医にすすめられて」(11.1%・3名)など身近な機関からの動機づけは少なかったことがわかる。

◆予防接種を受けさせた理由(MA) (%)

| | | 全体 | 保育園児 母 | 幼稚園児 母 |
|---|-----------------------|------|-----------|-----------|
| N | | 27 | 12 | 15 |
| 1 | インフルエンザが流行すると聞いたので | 85.2 | 83.3 | 86.7 |
| 2 | マスコミで報道されているので | 25.9 | 16.7 | 33.3 |
| 3 | 友人・知人にすすめられたので | 22.2 | 25.0 | 20.0 |
| 4 | 周囲でインフルエンザが流行していたので | 14.8 | 25.0 | 6.7 |
| 5 | 家族にすすめられらので | 14.8 | 16.7 | 13.3 |
| 6 | かかりつけ医にすすめられて | 11.1 | 0 | 20.0 |
| 7 | 子供が通う保育園・幼稚園ですすめられたので | 3.7 | 0 | 6.7 |
| 8 | 家族がインフルエンザになったので | 3.7 | 8.3 | 0 |
| 9 | その他 | 22.2 | 16.7 | 26.7 |

③子供に予防接種を受けさせなかった理由（F A）

予防接種を受けさせなかった理由としては、約2割が「受けさせたかったが、ワクチン不足で受けられなかった」(21.6%)と答えており、ワクチンが十分であれば接種していたと思われる。

「その他」の内容を大別すると、「子供の年齢、体調などによる事情」38件、「予防接種や薬への不信感、情報不足など」25件、「親サイドの事情」26件、「その他の理由」30件となる。

このうち「親サイドの事情」とは「費用」(13件)や「時間」(8件)が主であり、「その他の理由」とは、ほとんどが「必要と思わなかった／かかると思わない」(19件)、「予防の生活習慣をつけさせれば防げる」(6件)などインフルエンザに対する認識不足と思われるものであった。予防接種への不信感の払拭だけでなく、こうした認識不足を改めるためにも、提供すべき情報の量・質・タイミングについて今後さらに検討されるよう望まれる。

◆予防接種を受けさせなかった理由 (%)

| | 全体 | 保育園児 母 | 幼稚園児 母 |
|---------------------------|------|-----------|-----------|
| N | 162 | 94 | 68 |
| 受けさせたかったが、ワクチン不足で受けられなかった | 21.6 | 16.0 | 29.4 |
| 子供の体質上(アレルギー等)の問題、懸念から | 4.3 | 5.3 | 2.9 |
| その他 | 73.5 | 78.7 | 66.2 |
| 無回答 | 0.6 | 0 | 1.5 |

◆「その他」の主な内容 (119件)

| | |
|--------------------------------|-----|
| ◇子供の年齢、体調などによる事情 | 38件 |
| ・子供が年齢的に小さ過ぎた／入園前だったので | 20 |
| ・子供の体調不良／すでにインフルエンザ(風邪)にかかっていた | 16 |
| ・他の予防接種と重なった | 2 |
| ◇予防接種や薬への不信感、情報不足など | 25件 |
| ・型や接種時期が合わないとは効果が無い／接種してもかかるので | 12 |
| ・できるだけ薬に頼りたくない／副作用が心配 | 9 |
| ・ワクチンについてよくわからない／知らない | 4 |
| ◇親サイドの事情 | 26件 |
| ・費用がかかる | 13 |
| ・時間がない／2回接種するのは面倒 | 8 |
| ・接種の時期を逸した | 5 |
| ◇その他の理由 | 30件 |
| ・必要と思わなかった／かかると思わない／気にしなかった | 19 |
| ・予防の生活習慣をつけさせればよい | 6 |
| ・特に理由はない／知らなかった | 5 |

4. 来シーズンの予防接種意向

①来シーズンの予防接種意向

来シーズンの予防接種については、「必ず受けさせたいと思う」11.1%、「おそらく受けさせると
思う」33.2%と、計44.3%が〔接種意向〕を示している。

これに対して「おそらく受けさせないと思う」(13.2%)や「受けさせたいとは思わない」(2.6%)と
の〔非接種意向〕は計15.8%である。また「どちらともいえない」は40.0%であるが、この層は今後の
情報提供や啓蒙などで接種に転じる可能性を含んでいる。

通園先別では、〔接種意向〕は〔保育園児母〕41.5%、〔幼稚園児母〕47.6%とほぼ同程度であ
る。一方〔非接種意向〕は、〔保育園児母〕21.7%、〔幼稚園児母〕8.4%となっており、〔保育園
児母〕のワクチン効果にたいする認識と関連があると推測される。

また、今シーズン子供に予防接種を「受けさせた」場合は、1名を除くほぼ全員が来シーズンも
〔接種意向〕(計96.3%)を示しており、そのうち「必ず受けさせる」との積極的意向も4割と少なく
ない。今シーズン「受けさせていない」場合でも、約3分の1が来シーズンには〔接種意向〕(計
35.8%)を持っており、特に「ワクチン不足」が理由で受けなかった層では7割が受けたいとの意向
(計71.4%)を示している。

◆来シーズンの予防接種意向 (%)

| | 全体 | 保育園児 母 | 幼稚園児 母 |
|---------------|------|-----------|-----------|
| N | 190 | 106 | 84 |
| 必ず受けさせたいと思う | 11.1 | 11.3 | 10.7 |
| おそらく受けさせると思う | 33.2 | 30.2 | 36.9 |
| どちらともいえない | 40.0 | 36.8 | 44.0 |
| おそらく受けさせないと思う | 13.2 | 18.9 | 6.0 |
| 受けさせたいとは思わない | 2.6 | 2.8 | 2.4 |

◆今シーズンの予防接種状況と来シーズン接種意向 (%)

| | 全体 | 今シーズン 受けさせ た | 今シーズン受けさせていない (理由) 計 | 理由 | | | |
|-----------------------|---------------|--------------------|-------------------------|-------------|------------|------|------|
| | | | | ワクチン 不足で | 体質上の 問題 | その他 | |
| N | 190 | 27 | 162 | 35 | 7 | 119 | |
| 来 シ ー ズ ン | 必ず受けさせたいと思う | 11.1 | 40.7 | 6.2 | 14.3 | 0 | 4.2 |
| | おそらく受けさせると思う | 33.2 | 55.6 | 29.6 | 57.1 | 14.3 | 21.8 |
| | どちらともいえない | 40.0 | 3.7 | 45.7 | 28.6 | 57.1 | 50.4 |
| | おそらく受けさせないと思う | 13.2 | 0 | 15.4 | 0 | 28.6 | 19.3 |
| | 受けさせたいとは思わない | 2.6 | 0 | 3.1 | 0 | 0 | 4.2 |

②受けさせたい理由 (MA)

来シーズンに予防接種を受けさせたい理由は、「インフルエンザにかかりたくないので」(72.6%)と「予防に効果があると思うので」(70.2%)に集中しており、「保育園・幼稚園ですすすめられるので」や「かかりつけ医にすすめられるので」はいずれも1割に満たない。こうした傾向は今シーズンに予防接種を受けた際の理由と同様で、予防接種の動機づけは身近な機関からの情報提供や推奨よりも、マスコミ情報や口コミ情報が中心であることがわかる。

全体に〔保育園児母〕〔幼稚園児母〕ともほぼ同様の傾向にあり顕著な差はみられないが、「保育園・幼稚園ですすすめられるので」については〔保育園児母〕の方が若干高く、通園先によって予防接種の取り組み方が若干異なるようである。

◆受けさせたい理由(MA) (%)

| | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
|---------------------|------|-------|-------|
| N | 84 | 44 | 40 |
| 1 インフルエンザにかかりたくないので | 72.6 | 75.0 | 70.0 |
| 2 予防に効果があると思うので | 70.2 | 72.7 | 67.5 |
| 3 今年かかってひどいめにあっただので | 13.1 | 13.6 | 12.5 |
| 4 保育園・幼稚園ですすすめられるので | 8.3 | 11.4 | 5.0 |
| 5 かかりつけ医にすすめられるので | 7.1 | 6.8 | 7.5 |
| 6 その他 | 14.3 | 6.8 | 22.5 |

③受けさせない理由 (FA)

予防接種を受けさせない理由としては、半数が「効果がないと思うので」(50.0%・15名)を挙げている。また「面倒なので」(33.3%・10名)、「時間がないので」(10.0%・3名)といった消極的理由も少なくない。

しかし回答割合としては少ないが、「かかっても2、3日寝ていれば治るので」「薬には頼りたくない」とインフルエンザへの誤解や認識不足もまだあることから、来シーズンまでにさらに十分な情報提供や啓蒙活動が必要と思われる。

◆受けさせない理由(FA) (%)

| | 全体 | 保育園児母 | 幼稚園児母 |
|--------------------------|------|-------|-------|
| N | 30 | 23 | 7 |
| 1 効果がないと思うので | 50.0 | 47.8 | 57.1 |
| 2 面倒なので | 33.3 | 34.8 | 28.6 |
| 3 時間がないので | 10.0 | 13.0 | 0 |
| 4 子供の体質上(アレルギー等)の問題、懸念から | 10.0 | 4.3 | 28.6 |
| 5 かかっても2、3日寝ていれば治るので | 3.3 | 4.3 | 0 |
| 6 薬には頼りたくない | 3.3 | 4.3 | 0 |
| 7 その他 | 33.3 | 34.8 | 28.6 |
| 無回答 | 3.3 | 4.3 | 0 |

Ⅲ. インフルエンザの治療の状況

1. 今シーズンの罹患状況

今シーズン、インフルエンザ(あるいはインフルエンザと思われる重い風邪)にかかった割合は、18.4%(35名)である。この罹患割合は通園先別による差は小さく、ほぼ同程度とみてよい。

◆今シーズンの罹患状況 (％)

| | 全体 | 保育園児 母 | 幼稚園児 母 |
|------------------|------|-----------|-----------|
| N | 190 | 106 | 84 |
| かかった | 18.4 | 19.8 | 16.7 |
| かからなかった | 50.5 | 49.1 | 52.4 |
| 今までに一度もかかったことはない | 30.5 | 30.2 | 31.0 |
| 無回答 | 0.5 | 0.9 | 0 |